# 4215

## Ⅰ．標題：職場実習を通しての心の成長～コミュニケーションの工夫

## Ⅱ．事例の要旨：人間関係・自己実現

自分の気持をうまく表現できず、些細な事で興奮し、他者とのトラブルも絶えず、就労は困難とされてきたケースであったが、入所９年目にして初めて職場実習に出る。実習への意欲は媒体にし、弱点である対人関係･気持の表現に力点をおいた援助過程を、まとめてみた。

**見出し語（キーワード）**：実習開始　面談要求　実習終了　事業所評価

## Ⅲ．プロフィール

**氏名**：Ｅ・Ｔ　**性別**：男　**生年月日**：昭和47年４月15日　25歳

**入所年月日**：昭和63年５月10日　**在所年数**：９年

**ＩＱ**：49　**ＭＡ**：７：４　**知的障害の原因**：不明

**身体状況**：身長169.5cm　**体重**：52kg　**肢体不自由（運動機能障害）**：無

**視覚障害**：無　**聴覚障害**：無　**言語障害**：無　**自閉的傾向**：無　**てんかん**：無

**身体障害者手帳**：無　**療育手帳**：有

**行動特性**：過度の人への緊張･意識のしすぎからコミュニケーションがうまくとれず、すぐに攻撃的となりトラブルに発展してしまう。また気が小さく、周りの影響を受けての興奮も多い。集団行動を苦手とし、一人の時間を好む。

**日常生活動作**：ほぼ自立している。

**意思疎通能力**：相手を意識しすぎて、自分の気持がうまく伝えられない。（自分の方から話せない。わざと反対の事を言ったり、乱暴な言い方になる。視線が合わせられない）

## Ⅳ．生活の背景

**生育歴**：小さい頃より人見知りが激しく、慣れるまで時間がかかった。父の詐欺事件により、昭和63年母別居、離婚となる。中学時には多動傾向も徐々に落ち着きが見られるようになるが、トラブルメーカー的存在だった。

**入所前状況**：中学情緒学級卒業

**入所事由**：中学卒業後、行き場なく家にいても何もしないため、自立を望んでの入所である。

**その他必要事項**：弟は中学（特殊学級）を卒業後、就職し自宅より通っている。

## Ⅴ．援助の契機

**本人の状況**：指導･訓練により年々落ち着きを見せ、問題行動も減少、自ら実習への意欲をみせてきた。

**問題の状況**：初対面の人とのコミュニケーションがもてない。

**目標と設定理由**：目標～誰とでも話しをし、指示を素直に聞く。最後まで実習をやり通す。
設定理由～仕事をする上でもコミュニケーションの基本となる。

## Ⅵ．援助の内容

**援助の手順**：①担当を中心とした本人とのラポート作りを強化する。②事業所（実習先）との連絡を密にする。

**援助の手法及び手段**：①対話に心がける。自ら言い出せないような時は、それとなくチャンスを作ってやる。②１対１で落ち着ける場所でじっくり話しを聞く。（相談室を使用）③その際は具体的に善し悪しをはっきりわかるような助言をし、将来の希望、目標に向かっての意識づけをする。

**担当者**：担当を中心とした寮職員

## Ⅶ：援助経過

| 年 月 日 | 見出し語 | 問 題 状 況 | 援助の経過（具体的な対応） |
|---|---|---|---|
| H７．４．４ | 目標の確認 | | 帰所日に、父も同席してもらい今年度の目標を確認させる。<br>①自分の気持をきちんと話す。<br>②将来を見極めるために来年度実習を経験させ、成長を促す。<br>これまでも何度か本人の方から「実習に出たい」と申し出があったが、その都度「人の話を素直に聞く事が大切、それが可能になれば出れる」と具体的な注意点を話してきた。 |
| H８．５．15 | 実習について本人の意思確認 | | ６月の実習生選考会を前に本人の意思を確認する。<br>・自らはっきり「出たい」と意思表示する。<br>・現在の本人の問題点を指摘、職員も応援するが、約束を守れるよう自ら努力する事が大切と話す。 |
| ６．25 | 事前実習 | 不安大 | 初めての実習でもあり、極度な緊張が予想されたため、本人のみ特別に体験実習させる。→社長にほめられた事で安心してか挨拶、返事は思ったよりスムーズだった。 |
| ６．27 | 事前面接 | | 25日の効果あってか、挨拶・返事等自らでき良好、帰棟後自ら他職員に結果を報告する。緊張がほぐれてか、夜はいつもにも増し職員への甘えが多い。 |
| ７．１ | 第１回実習開始（研磨業） | 弱音を吐く | 帰棟し様子を聞くと、「社長に叱られた、行きたくない」と報告する。→30分程話しを聞く。→少し安心し落ち着く。 |
| ７．２ | 実習２日目 | 出勤渋り | 昨日の件をまだ気にし、「休みたい」と訴える。→大丈夫だからと事前に事業所にＴＥＬを入れてやると少し安心し出勤する。<br>帰棟後まだ不安感あり面談要求→「社長はほめているから」と励ました。また「社長に自分の気持を話してみてはどうか」提案する。 |
| ７．３ | 事業所訪問 | | 身体不調を訴えたりし、早朝の調整が必要と思われたため社長に状況を説明→悪い点については同様の対応をしてほしいが、本人の気持が楽になるような協力を依頼する→工夫し対応するので休ませないでほしいとの申し入れあり |
| 〃 | 寮会議 | 寮での対応を具体化、徹底させる | ①よく話しを聞いてやり、気持を吐き出させる。<br>②「社長さんはほめている」と話し励ます。困った時はTEL をしてやると話す。<br>③当面１ヵ月を目標とする。（給料をもらうまでと具体的に話す）<br>④あまり細かくかかわらず、遠くから見守り、実習は行くものという姿勢を見せる。 |
| ７．31 | 初任給をもらう | | 大変嬉しそうに自ら父（7/11に実習先を訪問している）への報告を申し出家へ TEL する。明日からの新しいペアとなる実習生に職員が TEL する→自ら「自分も」と TEL |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | に出、先輩気取りで話しをする。 |
| 8．6 | 治療要求 | 節度のない要求 | 「尻が痛い」と訴え、治療の際「尻をもんで欲しい」と要求。断ると不機嫌になる→職員とのかかわり要求を痔の治療時に代用しているきらいがあるが、過度な要求は拒否している。 |
| 9.20 | 面談要求 | | 実習開始からこれまでの間、４～５回に１回の割合で自ら面談要求、それに応じ励ましてきた。実習も終わりに近づき、生活面での注意も含め再確認する。→「次は○○事業所がいい」と自ら次回挑戦の希望を出すほど。 |
| 9.30 | 実習終了 | | 茶話会時、皆の拍手を受け、大変うれしそう。また、実習先へのお礼の TEL に自ら「出たい」と言い、きちんとお礼を言う。 |
| | ◎事業所評価 | | 当初は緊張強く、挨拶･返事できず、奇声･泣く･トイレに行けず、よそ見多い等、対人面での問題多いが、次第に安定し、自主性も出てき評価も向上した。 |
| 11．1 | 第２回実習開始（メッキ関係） | | 初めての事業所であるが、スタートから気持の面で余裕あり、気分は高調気味。 |
| 11．6 | 出勤渋り | 気持の切り替えができず | 起床せず、「休む」と言う→「一緒に行こう」と声かけし励ますと、受け入れ出勤する。(外泊から帰ったばかりで、気持の切り替えがうまくできず行きそびれたため) |
| 11.20 | やきもちから暴言 | なかなか謝れず | 他者に暴言をはいた事を注意すると素直に自分の非を認めたものの、相手に謝れず姿をかくしてしまう。→大切な事だから曖昧にできないと説諭→時間はかかるが最終的には謝りホッとした表情になる。 |
| 12.12 | イライラ | うまく話せず | 実習より帰棟時、不機嫌「工場長さんに叱られた。うまく話しができない。」と訴えイライラしている。→職員と話しをするうちに気持を切り替え明るくなる。 |
| Ｈ９．１．６ | 実習のれず | 気持の切り替えができず | 正月帰省明けのためかのれず、起床遅れる。→励まし、公用車まで見送る。実習先でも仕事に手が出ず隅でモジモジしている。あれこれ話しかけ、オーバーにほめ、気分を変えさせる。 |
| 1.31 | 実習終了 | | 外出し、給料で買い物する予定を立てていたが、父が入院した事を心配、自ら買い物をあきらめ家へ帰る事に決める。「お父さん大事にする」とやさしい言葉あり。 |
| | ◎事業評価 | | とっつき悪く、能力的にも大丈夫かと心配していたが、馴れるにつて話しをするようになり、冗談も通じるほど明るくなる。途中からのペアに対しても先輩という意識あってか、仕事面での能率が上がった。 |
| 4.25 | 事前面接 | | 初めての事業所、緊張大で名前も言えず。→仕事現場見学後、励まし促す。→時間はかかるが、最後自ら席を立ち挨拶する。→大いにほめる。 |
| 5．1 | 第３回実習開始（蒲鉾製造･箱折 | | 「立ちっぱなしで疲れた」との感想あるが、全体に表情良く、リラックスし浮かれ気味。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | り) | | |
| 5.23 | 指示に従えず | 素直になれず | 帰棟時身長測定に行くよう声かけされるが拒否、不調となる→必要性を説明するが、違う話しばかりし全く聞きいれず→「これから就職を目指す人ならどうしたらいいか」消灯前1対1で話しをする→後日行く事を約束する。 |
| 6.6 | 勝手に帰棟 | 指示に従えず | 健康診断のため、公用車が迎えに行くまで待つよう、前もって話をし送り出す。→待っていられず、会社の人の止めるのもふりきり、勝手に退社してしまう。→相手に心配し、迷惑を掛けた事を注意する。→後日、父が来所時一緒に事業所に出向き謝罪する。 |
| 6.20 | 日々の態度 | 挨拶せず | 実習より帰棟するも挨拶なしで居室に戻る。→「帰ってきたか心配なので挨拶すること、返事のできない人は就職もできない事」注意しておく。 |
| 6.30 | 実習終了 | | 実習費は、声かけにより就職室に持って来たものの、すぐに居室に行ってしまう。 |
| 6.30 | ◎事業所評価 | | 気分にムラがあり、返事・挨拶ができない、気に入らないと途中でどこかへ行く、目を合わせて人の話が聞けない等、問題が指摘された。→がんばってやり遂げた事をほめ、生活面でも同じ事が課題であると話す。 |
| 7.8 | 居室活動 | 職員に乱暴 | 今回はウォークマンが買えない事で(事前に話し合い了解済み)出発時より不機嫌だったが、些細な事で腹を立て職員の頭を叩き逃げて行く→ほっておき遠まきに様子をみる→帰棟時、自ら「自分が悪かった」と謝りに来る。 |
| 8.26 | 職場訪問見学に参加 | 気分のムラ | 退所就職者の職場を見学に行く。帰棟時不機嫌で声かけにどなり声をあげる→誘導により茶話会時には皆の前で報告の話ができる。→その後、1対1で話をすると、自ら帰棟時の態度を反省する。 |
| 9.29 | 事前面接 | | 体調不良のため延期する事を提案するが、自ら「大丈夫」と出かける。→緊張強く、全く顔も上げられず、返事すらできず→今日は具合が悪いからと励ます。→帰棟後発熱。 |
| 10.3 | 第4回実習開始(蒲鉾製造・民宿手伝い) | 話ができず | 仕事が早く終わり、事業所から送ってもらうが、ずっと外にいる→声かけでようやく中に入るが、理由を聞いても説明できず→1日目の感想を聞くと、「大丈夫がんばるから」と答える。 |
| 10.4 | 事業所より TEL | 固まって動けず | 次の仕事を指示した所、動けず固まってしまった。いろいろ話しかけるが黙ったままで、対応に困り迎えに来てくれるよう TEL が入る。→今までの事業所と違い、AM・PM で仕事場、内容とも変わり、本人戸惑ったのだろう。本人の勉強なので普通に接してるれるようお願いする。→帰棟後話を聞くと、自ら「止まってしまった」と、また「仕事が難しい」と不安を訴えるが、「皆が教えてくれるから大丈夫」と励ます。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10.20 | 事業所より TEL | 固まって動けず | 理由もなく固まり、対応に困る。迎えにきてほしいという TEL →迎えに行くがすでに１人で退社した様子。が棟には入れず、他の実習生が戻るまで外にいた。→本人、普通に過すが、夜理由を聞くと「ビールビンを持って腰が痛かったから」と話す。→湿布をはってやり励ます。 |
| 10.27 | 公用車に乗れず | 指示に従えず | 前回同様、健康診断のため公用車の迎えを待つよう前もって話をする→迎えの公用車に乗れず、会社の車で送ってもらう→健康診断に対する恐怖心もあるのか、一番最後にようやく実施できる。 |
| 10.31 | 事業所より TEL<br>社長と面談<br>本人と面談 | | 「仕事が片付いたので早めに帰っていい」と言うが動けず、迎えに来るよう TEL あり。社長と面談。本人の状況を説明、来月よりペアも加わるし、もう1ヶ月様子を見てほしい旨お願いする。→夜、本人と面談。始めは強がりの態度をみせていたが、社長の話をし、この点を直さなければと具体的に話すと、素直に聞き入れる。 |
| 10.14 | 突然医師に乱暴 | 恐怖心･小心さ | たまたま本人の近くにいた歯科医を突然叩く。その後また通りがかった際、医師から軽く注意された所、つかみかかり興奮状態となり、男子職員２人がかりでとり押さえる。→自らことの重大性に後悔しているようだが、居室にこもり謝りに行かれず→暴力は絶対に許されない事を毅然とした態度で注意、謝罪を促す→時間をかけ、自ら行動起こすのを待ち、最終的にはフォローし、謝ることができた。 |
| 11.19 | 移課となる | | 改築工事のため、３課から１課へ移課となり担当職員も変更となる。担当への照れか、話しかけに対し、わざと逃げ回ったりし話を聞こうとせず→１日担当から「そういう態度はおかしい」と一括されてからは、素直に話ができるようになる。 |
| 11.23 | 事業所より TEL | ペアの人に暴力 | 事件の件で些細な事で注意されペアの人に乱暴した。帰路２人では不安だから迎えに来てほしい旨 TEL あり。 |
| 11.24 | 本人と面談 | | 夜、相談室にて旧･新担当３人で話をする。暴力は許されない。仕事はクビになる等、注意→「もう謝ったから」とケロッとしている。 |
| 11.25 | 事業所訪問 | | １日新担当で出向き、23日の詳しい状況を聞き、今後の協力を願う。 |
| 12. 2 | 職能検査 | 固まってしまう | 緊張大変強く、始めの学力検査にショックを受けてか、次のボード移動検査時全く動けなくなる。→最後、促しにより何とかあいさつをし終える。 |
| 12.16 | 不満ぶつける | 要領得ず | ようやく新担当にも慣れてか、いろいろ話しをし不満をぶつけてくるが、なかなか要領を得ない。 |
| 12.25 | 実習終了<br>◎事業所評価 | | ・挨拶、返事等少しずつよくなってきているが、その時々の気持の不安定な時は、他からの指導･助言を受け付けない所がある。<br>・本人の対応に会社の方が要領を得て、色々配慮して下さり、３ヶ月間何とか続けられた。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | ・ペアでの関係もペアの人の方が気配を察し、上手にかわし本人との関係をリードしてくれたため、大事には至らずにやってこられた。<br>・今まで３ヶ所の事業所とは異なり、１日の中で仕事場、仕事内容、相手が変わる点、本人にとって高度な要求となり、不適応行動に現れたと思われる。<br>・ともあれ、３ヶ月間１日も欠勤せずがんばり通した事を評価し、今後に生かしたい。 |

**援助の結果**：周りからの働きかけにより、まだ気分にムラがあるものの自ら心を開き素直に自分の気持を伝えようとする姿勢、また聞き入れる姿勢が出てきた。初めて実習を経験し、不安でつぶれそうになったが、気持を吐き出せ、励ます事で３ヶ月間やり遂げる事ができ、それが自信となり、次の実習への意欲へとつながった。また、生活面においても、全般に安定した気持まで過せるようになった。

**改善された理由**：・本人の気持を受け止める事に重点をおいてきた。

・その気持を「言葉」におきかえられるよう、１対１での対話の時間を多く設けた。

・対話時には物事の善し悪しをはっきりわかるような話しかけに心がけた。

・自分で思っている事もいざとなるといえなくなるため、前もって職員を相手にみたて話す練習をした。

・適応力に欠けるため、予定の変更等はあらかじめ話をし納得させ、心の準備をさせた。

・問題あるごとに、実習先を訪問、事業所の協力･理解をお願いし、悪い点については同様の対応をするよう統一してきた。

・実習終了時には事業所の評価をもとに、本人と一緒に話し合いやり遂げた事をほめ、今後改めるべき事を確認した。

・父親にも実習先を訪問してもらったりし、励ましてもらった。

**援助の効果**：①対人関係の広がり

・「話がしたい」と自ら申し出て気持を話す事がだいぶ増えてきた。

・寮の茶話会等で皆の前で話ができるようになった（実習報告等）

・父親に対しても以前に比べれば素直に気持をあらわせるようになった。

②積極性が出てきた

・次の実習先を自ら選択し、やり通そうとする意欲は充分。

・実習費をもらう事で、生活全般の意欲も向上した。

## Ⅷ．考察

**事後評価**：就労を考えた場合、本人の性格、能力的計量を考えると、やはりコミュニケーションは難しい問題となる。しかし、それぞれ違った仕事内容･人間関係の４つの事業所での実習体験は本人を大きく成長させたと思う。今後も経験を積み重ねる事で、意欲･適応力の向上を期待したいが、そのためにも引き続き事業所側の理解と、実習終了後の気持のケアーが重要なポイントとなる。また、日々の生活においても、ラポート作りを基盤とさせ、自分の気持を素直に表現する。集団活動へのスムーズな参加を課題にし、前向きに援助していきたい。

## 4217

Ⅰ．標題：最重度者の心のふれあいと感動を求めて

Ⅱ．事例の要旨：人間関係･自己実現

①最重度者の知的障害者を有する。てんかん(レンノックス症候群を伴ない、発作が続いている。)
②発語なく言語理解乏しく、身辺処理は全面介助、危険回避もできず常時介護、監督を必要とす。
③指導部会議、ケース検討会議にて指導員の統一した指導方法又は介助の仕方を図る。
④体調とてんかん発作の関連を観察し分析する事により、それに応じた指導。
⑤集団生活を通し、他生とふれあい感受性が豊かになり、喜怒哀楽など意志表現も豊富になった。

**見出し語(キーワード)**：ケース検討会議　日常生活の健康管理　向精神薬

Ⅲ．プロフィール

**氏名**：K・K　**性別**：女　**生年月日**：昭和48年７月12日　24歳
**入所年月日**：平成４年９月２日　**在所年数**：５年
**ＩＱ**：測定不能　**ＭＡ**：　**知的障害の原因**：不明（最重度知的障害）
**身体状況**：身長153cm　**体重**：48kg　**肢体不自由（運動機能障害）**：無
**視覚障害**：無　**聴覚障害**：無　**言語障害**：有　**自閉的傾向**：　**てんかん**：有
**身体障害者手帳**：無　**療育手帳**：有
**行動特性**：多動であり、危険回避が難しい。常時介護、監護を要する。フラストレーションがたまると衣類かじり、指しゃぶりをしてしまう。
**日常生活動作**：未自立、全面介護要す。
**意思疎通能力**：発語なく、言語理解乏しく、指示が通らず声を掛けてもほとんどなにもせず。

Ⅳ．生活の背景

**生育歴**：３才のひきつけを起こし２時間くらい意識不明となる。その後抗けれん剤服用するも朝方発作見られレンノックス症候群と診断される。
**入所前状況**：養護学校中等部卒　知的障害児童施設入所
**入所事由**：児童施設からの移行
**その他必要事項**：本人は最重度の知的障害者で常に介護･監督を要するが（家業）がある為、家庭内でも介護･困難･施設入所希望。

Ⅴ．援助の契機

**本人の状況**：最重度の知的障害を有するてんかん（レンノックス症候群）を伴ない、発作が続いている。発語なく、言語理解乏しく、指示が通らない。ほとんど無感動である。
**問題の状況**：体調とてんかん発作との関係。多動で徘徊癖があり、その際の危険回避の問題、身辺処理に関する問題。(排泄、異食)
**目標と設定理由**：長期目標……人間らしい生活①集団に慣れる。②日課の流れに添う。③基本的生活習慣を身につける。④雰囲気を味わい、生活に活気を与える。

Ⅵ．援助の内容

**援助の手順**：①日課の流れに添った行動。②基本的生活習慣の確立。排泄チェックを行い、定時の排泄時間を身につけ異食を防止。③意志表現。
**援助の手法及び手段**：ａ．体力づくりも兼ね散歩をする。(フラストレーションのはけ口となり徘徊防止にもなりうる。) ｂ．常に声掛けをし（特に耳元で声掛けするのが効果的）反応を見ながらの指導。ｃ．体調のリズムに合わせた指導。
**担当者**：T・M

## Ⅶ：援助経過

| 年 月 日 | 見出し語 | 問 題 状 況 | 援助の経過（具体的な対応） |
|---|---|---|---|
| H４．９．２ | 入所 | 本人は最重度の精神薄弱者で常時介護･監督を要するが家庭内介護は困難な為、施設入所希望す。 | 排泄：時間設定（ズボンの上げ下げできるだけ本人の手を添える）<br>入浴：全面介助（洗体時にシャンプーの時などは嫌がらずにできるよう心がける）<br>着脱：全面介助（首元まで服をかぶせると自ら袖に手を通す、ズボン類は「足を上げなさい」と指示するれば足を上げるのでできるだけ声掛けて指示を促す。）<br>食事：スプーン使用だが２・３度口へ運ぶと手づかみをするので根気強い指導を要す。<br>その他：多動であり、ドアが開いているといつでも外へ出ていってしまい危険回避できないままあちこちを徘徊するので常に厳しい監視を必要とす。風邪ひきやすく扁桃炎持ちであるとの事、普段の健康管理に気をつける。 |
| 10.20 | 通院（精神科） | 体調不良 | 脳波検査実施<br>・顔色悪く全身の震えが現れ以前より状態が悪くなってしまった。<br>・歩行も困難となり、後退すると目立つ、指示する事にも全く反応を示さなくなる。<br>・一部投薬の変更届 |
| 11.17 | 通院（精神科） | 再診 | 11/13発作有。足元のふらつきや、全身の震えは少々良くなったものの。やはり投薬寮生の為、入院 |
| 12. 1 | 入院（精神科） | 投薬調整 | 発作（月１～２回）確認している。 |
| 12.14 | 退院 | 平成６年1/10まで自宅養成 | 退院後は徐々に回復のきざしをみせ、徘徊の心配までもできたとの事、全身の硬直も軟らぎ簡単な指示に対しての反応も良い。やや左足の震えはあるものの今後本人の健康状態に合せた指導を再検討する。 |
| H５．１．10 | 帰館 | | ①全般的に未自立ではあるが排泄において、言葉や変動により表示する事が、見られている。表現力を見出せる様、常に言葉掛けを重視し指導に当たる。<br>②日課のうち作業時間帯はいつでも作業に参加する。作業事態は全くできずともイスに座っていることぐらいはできるよう指導。 |
| ６．１ | 通院（精神科） | 定期診察 | ・以前に比べ体力が大分ついた。<br>・日課の流れについていける様になる。朝のマラソンも必ず参加走ることはできなくてもコースの半分を毎日歩いている。<br>・体調のバランスが良くなるとともに以前には不順だった整理も毎月順調に来る。体重も53.5kg(入所当初は46kg)<br>・食事の際、自らイスを引き着席した。以前よりスプーンの持ち方でもちゃんと手元を見るので、すくいがうまくなってきている。<br>・便通も良好２～３日に一度は必ず排便が見られるようになり、排便のチェックを行うことにより、排便時間を想定することができた。本人も排便をもよおす時はいつ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | までもトイレに座ったまま立とうとせず、いきんでいるかのように大声で独言を発する。 |
| H６．１．10 | 冬期帰省<br>帰館日 | 食事指導（箸使用について） | 冬期帰省より帰園した際、幼児期に箸を持って食事をしていたと言う母親からの話し聞かれる。幼児期に幼稚園をやめて施設へ入所した際同階の生徒達が手ずかみで食事していたのをみて以来箸をもとうとはしなくなっていたとの事。<br>食事指導再検討<br>・普段、手先、腕をつかう事が少ないため、二本つかんでいることさえ難しい。だが、本人にしてみれば食べることが一番神経も集中しやすい為、箸使用実施。 |
| H６．４．20 | 食事指導 | 継続中 | 食事指導中、集中力が欠けていた為食事をさげてみる。本人は落ち込み他生の様子を見つめている。皆が食事終了の際、再度指導開始すると、自ら箸を持ち出し食事する。まだ指の使いはうまくいかないが①箸の先端に物をのせる②箸で物をつついて取る③箸の間にたまたまはさめた時は落とさぬよう指に力を入れて見ると言う３点の要領で指導継続。 |
| ７．９ | 通院（精神科） | 定期診察 | 脳波検査施行（発作月１～２回）<br>抗けいれん剤３ mg 減　様子観察<br>てんかん発作の前兆<br>ａ．落ち着かず座っていられない、絶えず室内を歩き回っている b. 夜眠れない日が続く（一晩中眠れずにいることもある）ｃ．指示に対して反応を示さずｄ．食事の時、自ら食べようとせずｅ．発熱した時ｆ．祭りや旅行など嬉しくて興奮状態が続いた時ｇ．表情（顔つき）が鋭くなる。 |
| 11．４ | 入院（肺炎） | | 冬期に弱くよく風邪症状見られるため普段の健康管理重要。11/14退院　11/21まで自宅にて静養 |
| H７．３．25 | 外泊 | | 春季を迎えるとともに食欲も増し、活気戻る。変わったこととして父親への感心が大分出てきた。また感情表現が豊かになったことを感じたと母親より報告。 |
| 10.16 | 発作 | 睡眠不足 | この所睡眠不足であった。毎日 AM １～２時まで眠れずとうとう発作となる。いったん発作が起きてしまえばうって変って安定した表情を取り戻しこの日より約２週間ぐらいは安定した日々を過ごす。その時期は指示に対しての受け入れ良く意志表現も豊富となる。 |
| H８．４．９ | 検温 | 体温調節 | よく発熱する為本日より約３ヶ月間毎日朝･夕に検温し体調と体温の関係を調べる。（指導員全員協力）<br>①興奮状態が継続すると発熱しやすい②整理前微熱続き整理終了後下がる。③夏期体温が上昇すると体温も上がる（体温調節できず）<br>発熱した時は発作誘発の原因となるので水分補給図る事により熱が下がり発作を避けることもできる。 |
| 10.19 | 指導部会議 | 徘徊 | 10/15夜徘徊近隣者より通報受け保護する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 原因として考えられること<br>①開放感(本能的なもの)<br>②危険回避ができず居室に居ることが多くなりがちな為、フラストレーションがたまる。<br>③帰省や外泊時には必ずと言って良いほど姉・妹に連れられて外出している（とにかく外が好きである）<br>今後の対応策<br>①天気の良い日には１時間程度の散歩をする。②危険な場所と思われる所に柵を作る |
| Ｈ９．４．１ | 自然散策クラブ | 徘徊クラブ<br>体力作り | 自然散策クラブに入る。(毎週水午后１：00から３：00)<br>・制限の無いコースを散歩しながら、自然に触れ自然を満喫することにより、フラストレーションのはけ口となる。(フラストレーション＝指しゃぶり。)<br>・室内に居ることが多く運動不足になりがちなので歩くことにより徐々に体力をつける。 |

**援助の結果**：入所当初は他の入所生と比べると能力的な差がなはなだ著しく感じた。まず日課の流れについて行くことで精一杯であったが極力この流れに添うべく努力をした結果、何時の間にか体力もつき皆と行動を共にできるようになり、食事面での指導においても入所前は手づかみで食べることもあったが今ではスプーン使用から箸まで使用できるようになりつつある。体調の良い時はうまく箸を使用し食べている。排泄面でも時間を設定することにより排尿はもとより便こね、異食がほとんどなくなり順調である。この５年間何といっても入所生同士のコミュニケーションが大きな影響を与えたのだと思われる。何よりも「Ｋちゃん、Ｋちゃん」と仲間から毎日声掛けられて明るく生活出来ていることは無感情、無表情であったように思えた本人が感受性豊かに成長した要因である。

**改善された理由**：①環境の変化…入所前の児童施設では能力的に同じ程度の人達と生活していた為互いに良い方向へと影響し合うこともなくただ漠然とその日を送ってきてしまったのが現状ではないだろうか。当施設に入所してからは仲間からの声掛けが非常に多く、時にかまい過ぎと思える程である。他生にとってＫちゃんは自分より下という感覚でいろいろな面をカバーし何よりも仲間として受け入れてくれた。

②日課の流れに添い流れをつかむ…毎日同じ行動を繰り返しすることにより基本的生活習慣を身につける。

③本人の観察、記録を綿密に取りその結果(体調に合せる）で指導を行い効果を上げる。

④生活面で全面介助を要するが本人の体調によってはあえてできるだけ「やらせる」「させてみる」の指導で指導員全員が取り組んだ。

⑤精神科医との連携　向精神薬調整Ｈ４．12．１

**援助の効果**：・本人の要求をとらえ意思表示を理解することはもちろんのこと逆に入所生からも職員を受け入れてもらうことが大切であり、そうすることにより本気になり接すれば本当に相手に通じるものだと実感した。「なんだＫちゃんは知っているんじゃないの」と思わず口走るほど指示を理解し、それに応じられた時は驚くと同時に感激した。

・何かが出来た時にはとにかく褒めた。するとニコニコし時に笑う(声を出して）ことさえあった。「やっぱりわかっているんだ」と実感す。

・指示を出す時や注意する時などは大声で遠くから言うより耳元で話しかける方が効果的(耳を傾け静かになる）であった。

## Ⅷ. 考察

**事後評価**：入所当初とは違い大分感受性も強く感情表現も豊かになってはきたが、てんかん(レンノックス症候群)あるため常に状態を良く観察し、指導に当たる。また危険回避が難しいので居室に居ることが多くなりがちであった。けれども体調のバランスを保ち、安定した生活が送れるよう援助したい。また本人の情緒安定を保つためには家族とのコミュニケーション、家族の協力と理解が必要である。向精神薬服用の為、精神科医との連絡も日常的に行なう。

**反省点**：入所当初は早く何かを覚えさせたくて無我夢中でした。てんかんがあるので、発作の起きる前は、調子悪く何日聞き入れなくなっている状態なのにもかかわらず、無理に歩かせたり、箸を持たせようとしたりした。長年介護指導をしてきて、調子の悪い時と良い時が周期的に来ることを確認し今までのことを反省する。表情が変わり落ち着かなくなっている時は指導するのは無理なのである。その反対に良い時は驚くほどに受け入れが良い。記録も色分けした印をつけることなどし体調のリズムを(一目で)把握し指導に当たっていきたい。

# 4218

## Ⅰ．標題：作業を通して人間関係が広がり、意欲を持って作業に取り組む様になった事例

## Ⅱ．事例の要旨：人間関係・自己実現

1．入所前より反社会的行動が問題行動としてあり、対人恐怖がうかがわれ(ケース記録、診断書には人格障害の疑いと記されている)、入所後も意に添わなかったり、注意を受けると緘黙を続け、現実から逃避しようと殻に閉じこもり自分の腕を傷つける等自傷行為が続いた。無断外出もあった。

2．能力的にも高いものを持っているので、本人に考えて判断させるような援助を展開することにより仕事にも意欲的に取り組むようになった。人間関係においても逃避することが少なくなり、自分から心を開くようになってきた。自傷行為は現在の所なくなってきている。

見出し語(キーワード)：自傷行為　緘黙　意に添わないとふて寝をし、人間関係を維持できない

## Ⅲ．プロフィール

**氏名**：Ｋ・Ｍ　**性別**：女　**生年月日**：昭和52年４月25日　20歳

**入所年月日**：平成９年４月１日　**在所年数**：９ヵ月

**ＩＱ**：69　**ＭＡ**：　**知的障害の原因**：不明(軽度の精神遅滞)

**身体状況**：身長152.3cm　**体重**：69.5kg　**肢体不自由（運動機能障害）**：無

**視覚障害**：無　**聴覚障害**：無　**言語障害**：無　**自閉的傾向**：無　**てんかん**：無

**身体障害者手帳**：無　**療育手帳**：有

**行動特性**：人間関係において自分の要求が通らなかった時、布団をかぶりふて寝をし、無断欠勤、無断外出をする。又、その時自傷行為(これは注意を自分に向けるものとも考えられるが)タバコの火で自分の腕を焼く、かみそりで手首、腕に躊躇傷をつくる等、問題行動がある。

**日常生活動作**：自立している

**意思疎通能力**：能力的に高く日常生活能力も高い為、こちら側の援助も理解できる。対人関係において自己中心的で相手の立場で考える段階には至っていない(Ｈ９．４．１入所当時)

## Ⅳ．生活の背景

**生育歴**：Ｓ52．4．25出生後、父親のアル中の為虐待され、１才児で乳児院入所。２才より養護施設入所と乳幼児期より施設で生活している。小・中学校時代、友達から仲間はずれにされる等、いじめを受けている。学園でも同様盗癖(通院中売店で万引き、菓子屋に侵入し品物を盗む等)カミソリで自分の腕に傷をつける、ふれくされて寝込む、等問題行動が頻発した。

**入所前状況**：一度他県にいる姉をたよって就職しているが、人間関係がうまくいかず、仕事を無断欠勤し、以前入所していた養護施設でむかえに行き、更生施設へ入所しているが、能力的に高く、更生施設への不満がつのり、他利用者とのトラブルがつづいた。

**入所事由**：能力的に高いため、更生施設では本人の充分な能力を引き出すことができないこと、又性格的な問題も授産を通して援助した方がベストと思われるため。又就職も考えたが、職場が長続きしないため、施設入所を希望。

## Ⅴ．援助の契機

**本人の状況**：なかなかの施設の中の利用者と馴染めず、職員には話しをするが、関わりを持てない状況が続いた。Ｍ自身、長く施設に居たくないという考えがあり、ここの利用者と自分は違うという気持があったようでした。

**問題の状況**：入所前と同様、注意をされるとふてくされて仕事は無断欠勤し、煙草を自分の腕に押

しつけ火傷の跡をつくったり、躊躇傷をつくる等、問題行動が続いた。これの伴なって無断外出もあった。

**目標と設定理由**：授産種目を通して働く意欲を持たせること。家族と関わりを持たせることで、将来に向けての希望を持たせ、人間関係をうまく保てるようになることを目標に援助していく。食事もひどい偏食があり、この点についても援助を加えていく。

## Ⅵ. 援助の内容

**援助の手順**：能力的にも高いものを持っているので、M自身に考える時間を与えると共に、逃避は問題解決にならないこと、Mが乗り越えなければならない壁は自分で乗り越える努力が必要なことをその都度教えるようにした。

**援助の手法及び手段**：人間関係において冷めたような言い方をするが、逆に強く関わりを求めているような所があるで、Mの表情面をうまく誘導できるように、注意するだけでなく、時には誉めることでMが認められたと認識出来るような方法でケアしていくようにした。

**担　当　者**：ケース担当及び指導担当者を中心に全職員統一した援助を行なう。

## Ⅶ：援助経過

| 年 月 日 | 見出し語 | 問 題 状 況 | 援助の経過（具体的な対応） |
|---|---|---|---|
| H９．４．１ | 入所 | | 更生施設の生活指導の担当者、福祉事務所の担当者に連れられ入所してくる。<br>・入所後、もう施設はたくさんだ！長く居たくないと何度も話しをしていた。<br>・職員とは話しをするが、利用者と話しをしたがらず、自分はみんなとは違うということが態度からみられた。<br>・利用者に対しても、相手の立場で考えることなく、傷つく言葉を平気で口にし、トラブルの原因をつくっていた。 |
| ４．７ | 無断欠勤 | 緘黙と逃避が要求を通す手段となっている。 | 作業の休憩時間に、５月の連休に帰宅する話しが利用者から出る。Mが自分も帰れると思ったらしく、(この時学園(養護施設)に帰りたいと思ったようである。)母親も入院しているし、自宅の方も誰もいないし、学園にということになると、園長、課長とも相談してからでないとという職員の言葉に顔色が変る。その件について話しをしようとすると、逃げて話しを聞こうとしないため、しばらく話しを聞けるようになるまで待つことにする。その日は午後より無断欠勤する。次の日は、本人なりに気持に整理をつけたかのように思えたが、作業にでてくるが無口である。 |
| ４．８ | 家族との関わりを持つことを目的にTELをする。 | | 家族との継りを支えにできるように、他県に嫁いだ姉にTELをし、新しい施設に入所することになった旨連絡を入れる。姑さんも出て、こちらの意向を理解してもらう。同時に早くこちらの生活に慣れるようテニス、卓球を好むようなので、テニスを通して共通の趣味を持つよう、休憩時間を利用して、体育館で共にテニスの壁打ちをすることにした。その後姉から手紙の返事が来たり、TELのやり取りがあり、宅配で菓子やぬいぐるみを送ってくる等交流があり、Mも自分は１人ではないという心 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | の支えとなったようです。しかし利用者との関わりに進展は見られませんでした。自分から壁を作っているようでした。気持の中に自分はここの利用者と違うという意識が壁を作っている原因と思われました。些細な言葉が原因でよく他の利用者とのトラブルがたえませんでした。 |
| 5.10 | 花見会、買物訓練 | | 初めての花見会、買物訓練で煙草・毛染めを買ってくる。煙草は職員の見ていない時に買ったとのこと。煙草について、他利用者から時々もらって吸っているという話しも聞いたいた。毛染めに対しても、日頃からあこがれていたので、買物で買ったようです。自分の働いたお金でオシャレを楽しむのはよいがMが今日買物したお金は、自治会より一時立て替えから借用したものなので、給料をもらってから買ってほしかった旨を話す。Mは私達の要望を受容できなかったらしく私達に対する抵抗で、その晩毛染めをしたとのこと。使い方が分からず、半分の量を使用したため、染めれず、掌だけが真っ赤に染められていました。しかしそのことが逆にMの良心をくすぐったらしく、自分でバチがあたったと思ったらしく、その晩自分が悪かったと誤り、こちらの給料をもらってからという要求を受け入れるといってきました。喫煙についても同様ですが、20才をすぎているので禁止ということでなく身体を考えて吸うようにということで、Mに考えさせることにする、又この時隠れて喫煙はしないようにと注意をしている。 |
| 5.11 | | | 5月より他利用者と同様、掃除分担の中に入れる。夜の食器洗いをしていないと他利用者より訴えがあり、食器洗いに協力するよう促すが、拒否する。理由は、メンバーが嫌との事、自分の我儘であることを説明するが、頑に拒否する。5/12次の日作業に出るが急に胸が苦しくなり静養をする。精神的なものが原因と思われる。入所前のケースにもあったが、人間関係において適応していけないためとも考えられるため、精神的要因が身体的な部分に影響を受けるようであれば最終的に、本人の精神力を強くする事を目的として、少しずつ改善が見られるような方法で援助していけるようにしたいとM交えて話合いを持ち、強制することなく援助したいと思っている矢先、利用者Tが食器洗いと食堂掃除を変ってくれると申し出てくれる。本来であれば良い方法とは言えないが、このケースの場合、申し出たTの気持をMが理解できるようになればと申し出を受けると同時に、いずれはどこの掃除もできるように努力する事を約束し、Mの申し出を待つ事にする。その後食堂掃除は、きちんとやっている。 |
| 5.15 | 無断外出 | | 作業中無断で加工場を抜け出し、居住棟へ戻る。理由を聞くと胸が苦しいとの事で静養する。(直接的な原因が11日の事らしい)昼食も摂らず、部屋に閉じこもっていた。昼すぎ、売店でパンを買い布団工場方面へ歩いて行くのを発見するため、布団工場で作業中の職員に連絡する。布団工場の職員がMの姿を見つけたが、来客中のため、 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | ほんの２～３分外に出れずにいるうちに、姿が見えなくなる。他職員にも応援を頼み捜す。15：00サイクリングコースを歩いているのを発見し、連れ戻す。話しを聞こうとするが、居室に閉じこもり、涙を流すだけで、話しをしようとしない。自分から話せるようになるのを待つ事にし、様子を見る。 |
| 5.16 | 無断欠勤、ふて寝 | | 朝から作業に出ず、ふて寝をしている。話合いをしようとするが、緘黙をつづける。 |
| 5.17 | | | 朝食時Mの姿が見えなくなる。捜すが見つからず非常召集となる。体育館周辺を歩いているのを発見する。Mは無断外出のつもりはなかったようだが、数日間の問題行動も含め、Mの施設に馴染めない原因となっている利用者を蔑視する。考え方を直したいと思っていたため、こちらも２人で援助にあたる。職員Aは悪い事を注意するよう声がけをする。それに対してMは顔色を変え、いつものように緘黙をつづけていた。そこで１ヶ月でMの小さい子、弱い利用者に対してやさしく接する態度にこちらも好感を持っていたので、職員Bはその点を誉める事にした。そのことでMの顔つきも柔らかくなったが、その場よりいつものように逃避しようとしたので、２人でその場より出さないように押える形になったが、逃げて何の解決にならない事、M自身が現状を乗り切らない事には施設から出られないこと、Mの囲りの利用者はみんな優しくMをいつも受け入れる準備ができていること等を話して聞かせた。その時「Mはうちの利用者を自分より低いと思っているかもしれないけど･･･」という職員の言葉に「私はみんなをバカにしてはいない！」という言葉が出た。今までこういう状況になった時、自分の思っていることを表現することはなかったが、こちらの誘導により言葉で自分の気持を言えるようになった点に一つ進歩がみられたと思った。腕には自傷(煙草をおしつけ火傷の跡)の跡があり治療をしてあげる。その後、Mに考える時間を与えることにした。 |
| 5.18 | | | 次の日誰に言われなくても作業に出てくる。自分から昨日のことは悪かったと、謝ってくる。昨日押えられた手首が痛いという。Mの腕には赤く押えた跡がついてました。おそらくMにとって身体ごと受け止められた経験は初めてだったと思う。又このような状況が発生することは予測されるが、殻に閉じこもることなく、自分の要求を表現できるようになっていけばと思う。<br><br>その後食事についても、すぐとはいかないが、本人なりに食べようという努力も見られてきた。そうした矢先、6/8生化学検査で中性脂肪250で高脂血症と診断され、食事制限の指示あり、医師、看護婦より原因について説明を受けたことにより、Mなりに周りのケアにより野菜を摂る必要性を理解したらしく、野菜、魚も少しずつ食べるように、又大好きな肉類、菓子類も控えるように努力している姿がありました。その結果、9/19の定期検診の |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | 結果105と正常値に戻り、その後の定期受診の結果も良好である。 |
| 6. | | | 初対面の人とうまくコミュニケーションがとれないが、加工場でMと一緒に働くSとの関わりも本人にとってプラスになったようです。Sは給料表1級をもらうくらい作業能力も高く、長年加工場でパックづめの仕事をしている。逆にSにとってもMが刺激になっていました。MはSのようになりたいと自分でも技術の工場に努め、そういうMをSは、妹のような関係で見守っていました。 |
| 8.13 | | | 盆の家庭実習で利用者がほとんど帰宅したが、Mは残寮する。帰宅できないことを職員の方で配慮し、親代わりになっている園長、ケース担当で外食会を設定し、その晩はケース担当職員の家に一泊する。<br>13日、他県に嫁いでいる姉が、入院中の母の見舞いも兼ねてMに面会に来ることになり、当施設へも宿泊する。母の見舞いにも一緒に行くことになった。その後二番目の姉より TEL があり、8/28に面会に来て学園(養護施設)当施設に宿泊する等姉妹の関わりがMの心の支えとなった。 |
| 8.27 | | | この頃作業中30分に1回位の間隔でトイレにいくようになるため、不審に思って聞くと言い方がおかしかったので聞くと、自分から「トイレで煙草を吸っていない」と言う。他利用者より、朝出勤し、8：00すぎ、職員が来るまでの間に煙草を吸っているという訴えもあるのでMに注意する。 |
| 8.28 | | | 仕事を無断欠勤し、部屋に閉じこもっている。この頃になると、我々とMの関係にもゆとりが出てきているので、Mに考える時間を与え、Mから謝ってくるのを待つことにする。15：30頃Mから無断欠勤の原因は、同じく加工場で働くSと比べてSが羨ましくなり、自分が悲しくなったとのこと、煙草の件についても悪かったと謝りました。20才を過ぎたのでと許した煙草も休憩中男子利用者は吸っても良くて、MはOKが出ていなかったので、こういう事態も起きると思い、休憩中に1本吸うことを許可しました。しかし本来煙草については、大腕を振るって賛成できない旨、健康面も考慮し、説明しMも少しずつ減らすよう努力することで歩み寄ることにしました。身体に害があることをM自身が気付くことで、私達も煙草の件については、M自身又は周りで煙草が原因で病気になるなどの状況が出てきたら、高脂血症の時のようにMも考え、止める方向へと進められると思います。<br><br>その後4ヶ月Sに追いつこうとMなりに頑張る態度がみられるようになりました。入所当時のようなトラブルも少なくなり、他利用者に対しても、歩み寄ろうという態度が見えてきています。将来に向けて自立、就職、結婚も可能であると思って、これからも援助を続けて行きたいと思っている。 |

**援助の結果**：入所当時たびたび現れた問題行動に対し、M自身もなぜあの時あんなことをしたんだろう10代の反抗だったと笑って話せるよう成長しています。緘黙、無断欠勤等なくなったら、昇給も可能であることを、本人と約束しM自身技術の向上にも努め、１月より給料表３級から２級へと昇給しています。又現在では集団の中で歩み寄ることで、相互の関係を維持できることも学びました。これから先環境が変ることで適応できなくなり問題行動が出ることも考えられますが、施設内で就職、結婚をしている利用者もあるので、Mにとっても将来に向けて励みになっているようです。

**改善された理由**：能力的に高い利用者なので、一人の人間として認め、受容することで本人に自信を持たせた点、M自身の内面に秘められた優しい部分を評価してあげることで、M自身の良心がくすぐられたことにあると考えている。又、施設の中で他利用者は帰れる家を持っているが、自分には家はないという気持がMの心を閉ざしていたと考えられたので、他県にいる姉達との関わりを保つことで、Mに一人ではないということに気付かせたことが改善に向かったと思う。又、姉達も当施設に宿泊する等、実際につながりが持てたこともあると思う。作業でも比較的高度な技術を要する場所に配属され、共に働くＳがMの働く意欲をかりたてた点もプラスの要因だったと思われる。いずれにしても完全に改善されたとは考えていないが、我々職員とMの間にこれから問題行動が出てきたとしても共に向き合えるようなつながりができたと考えている。

**援助の効果**：新たな人間関係において、まだまだ問題は多く残されていると思うが、M自身現実から逃避することなく、要求を表現することで対人関係を拡大できることを知り、寮内でのトラブルも少なくなり、他利用者に対しても思いやることで利用者間の関わりも出てきた。まだ初対面の人と応対は緊張した様子がうかがえるが、これから少しずつ改善がみられると思う。

## Ⅷ．考察

**事後評価**：以上のような経過で、統一した援助のもとに、自傷行為もなくなり偏食も少しずつではあるが、食べるような努力がみられるし、人間関係にも広がりがみられる。著しく改善の方向へと向かったと考えている。対人関係が改善されると共に、施設内のアパートに住み、就職、結婚をしている利用者のようにいつかは自分もという考えになってきている。能力的にも可能と思えるため、今後に向けて姉妹のつながりも維持しながら援助をつづけて行きたいと考えているケースである。

# 4227

## Ⅰ．標題：処遇困難者の個別処遇の取り組み

## Ⅱ．事例の要旨：人間関係・自己実現

①不適応行動を有する者への対応として、TEACCH プログラムの理念に基づいた「構造化」と「個別プログラム」を基本とし、不適応行動の改善を図る。
②「場」の設定と「方法」の変革が個人変化をもたらし、行動の改善と精神的安定につながっていくことの実証。
③職員の意思統一と援助方法の統一の結果、他害行為の減少と、自力行為の伸びがみられた。
見出し語（キーワード）快・不快刺激・他害行為・行動転化・日課の構造化・個別プログラム・AAPEP 評価

## Ⅲ．プロフィール

**氏名**：G．A　**性別**：女　**生年月日**：昭和48年４月12日　24歳
**入所年月日**：平成元年11月１日　**在所年数**：９年
**ＩＱ**：40　**ＭＡ**：５：10　**知的障害の原因**：不明（判定表より、中度の遅滞、自閉的傾向、衝動性、発語障害）
**身体状況**：身長155.7cm　**体重**：74kg　**肢体不自由（運動機能障害）**：無
**視覚障害**：無　**聴覚障害**：無　**言語障害**：無　**自閉的傾向**：有　**てんかん**：有
**身体障害者手帳**：無　**療育手帳**：有
**行動特性**：他害行為（他者の髪ひっぱり、押し倒し、かみつき、指そらし）、盗食、不適切な笑い、突っ走り、反響言語、腕の上下振り、突然の大泣き、人前での脱衣、他者の脱衣、性器いじり、においかぎ、髪さわり、布団引き込もり、抱きつき、あごこすり
**日常生活動作**：着脱衣自立、排泄一応自立、洗面・歯みがき要援助、食事自立、就寝準備一応自立、歩行自立、入浴介助
**意思疎通能力**：認知力不足、予測力不足、言葉を理解しているようにみえるが、場面、時間帯のパターンでとらえ、反応していることが多い。コマーシャル語の反復遊びが多い。「これをしてください」等、１つの行動指示を理解し、行動できる程度（２つはダメ）

## Ⅳ．生活の背景

**生育歴**：小学校特殊学級、多動傾向あり。中学校（父親の仕事の都合による転地に伴い養護学校中等部寄宿に入る）家庭より離れたことと、思春期が重なったことが原因か、他害、泣き叫び等行動が出始め、精神科薬開始となる。また対人関係に問題が現われる。
**入所前状況**：中等部卒業後も本人の不安定状況続く。児童施設６ヶ月措置後、当寮へ。
**入所事由**：思い通りにならないと、泣き叫び、危険回避不可であるため一時も目を離せない。家での対応は困難。
**その他必要事項**：両親は本人に対し理解、愛情を示しているが、不適応行動への対応として考え出せない現状。

## Ⅴ．援助の契機

**本人の状況**：入所８年にして、他害行為の変化なし。日課拒否等、不適応行動改まらず、加えて、てんかんの発生、皮ふ疾患の増ぶくと医療配慮も加え、生活全体の見通しと精神安定の必要がみられる。
**問題の状況**：精神科薬、てんかん薬、皮ふ科薬の関係からか眠気が強く、日課への引き出しが困難でその場その場の対応、声がけでは八つ当たり的他害を増大させるだけとなってきた。

**目標と設定理由**：短期目標　寮内に新設した不適応行動を示す者を対象とする場を基として、日課の構造化を図る。

長期目標　他害行為の軽減と、対人行動の改善を図る。

目標　日課を理解し、主体的に動けるようになる（達成経験の体得）ことで、指示行為の差からくる本人の混乱を減少させる。ひいては八つ当たり行動としての他害行動を是正する。

## Ⅵ. 援助の内容

**援助の手順**：① AAPEP 評価により指導方針の整理　②快・不快要因の抽出、行動特徴表作製不適応行動チェックにより本人の行動傾向の把握　③受容的姿勢を基とし、待つ姿勢保持で本人とのラポート樹立　④指示系統、方法の統一等により本人の自主行動をはぐくみ、精神的安定を図る。

**援助の手法及び手段**：ティーチプログラム、行動療法的技法。Ｈ８、４月より不適応行動を示す者６名に対し５名の職員を配置する処置体制をとり、本人もそのメンバーとなり、評価→予測→仮説→実践→評価のくり返しの中で、生活全般に渡り改革を試みる。

**担　当　者**：寮職員　医療～精神科医　プログラムアドバイス～Ｙ大学大脳生理学教授

## Ⅶ：援助経過

| 年 月 日 | 見出し語 | 問 題 状 況 | 援助の経過（具体的な対応） | |
|---|---|---|---|---|
| Ｈ８．７ | 評価 | 個別プログラム作制のため | ① AAPEP 評価～できることとできないことの把握<br>②特異行動の経過及び行動一覧表の作製～指導の対象とする行動のしぼりこみ<br>③生活リズムをチェックし、不適応行動の動向調査～指導対象とする時間帯の選定<br>④快・不快刺激要因の調査～声がけ、関わりはなるべく快刺激を使用する<br>⑤コミュニケーションサンプル～言葉遊び等、コミュニケーションをとる場合に使用可。 | |
| Ｈ８．９ | 作製 | 個別プログラム | 他害行為を多く示す日課を抽出し、構造化を図る。<br>①起床②クラス参加③掃除④余暇⑤入浴 | クラスでのワークシステム<br>場 ステップハウス<br>個人のブース整備<br>作業手順の構造化<br>内容　サインペン<br>ボールペン<br>ボルトナット |
| | | 起床 | ・起床を促す言動により、起床できても他害につながることが多い。<br>・移動時、食事中、かなりの時間経過後<br>・与薬を食事の合図とする（布団片づけ、起きろの声かけはしない）<br>本人によって不快刺激ととらえる。 | ※Ｈ８　９月末<br>チームミーティング<br>ア　プレイルームから課題席への移動がスムーズでない。 |
| | | クラス参加 | ・布団片づけ（動きがでないときは間をおく）<br>・次の日課の声がけする。<br>・布団もぐりが強い場合は、体調不調と判断し、その旨申し送る。 | イ　３種目に渡り中断が多い。<br>↓ |
| | | 掃除 | ・実物提示にて知らせる（雑巾を渡す）<br>・夕食直前の時間帯<br>・量、３往復→２往復（本人の了 | Ｈ８．10<br>場～変更なし<br>内容～ AAPEP 評価 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 解範囲）ととらえた | によりフィルムケース入れ（29ケ） |
| | | 余暇 | ・近寄り、抱きつき等、ジャンケン遊びに転化を図る。 | ↓ |
| | | 入浴 | 入浴の手順変更、本人の嫌いな下着洗いは最後に提示。<br>①洗髪（介助～医療行為に近いため）<br>②洗体（自力～最後に介助）<br>③下着洗い（自力）<br>入浴での気持ちよさを体得してもらうことが目的<br>移動～声かけ、拒否時は間をおく<br>強制執行はしない。 | Ｈ８．10<br>チームミーティング<br>課題は了解範囲が中断、離席は少ない（継続）<br>↓<br>Ｈ８．11<br>作業終了後<br>コーヒータイムを強化子とする |
| Ｈ８．10 | 父兄懇談 | | 半日時間をとり、本人について、両親からもじっくり生育歴・希望をきく。<br>現在のプログラム、めざすところを話す。<br>「私たち親は幼い頃の大変さが忘れられず先々とガードしてしまっていたんですね。もっとやれる子だったかもしれないのに、でもそうできない程大変だったんです」と話した母親の言葉が印象的。 | ↓<br>Ｈ８．11末<br>コーヒーへの関心あり<br>課題席への移動スムーズとなる。<br>皆で始めの援助後、動きをみせないときでも他者がコーヒーを飲み出すのを見ると自ら移動し作業する。平均（30分間） |
| Ｈ８．12 | チームミーティング | 食事 | ①摂取有無を本人にまかせているが、欠食が３日連続することはない状態。まかせて大丈夫だろうと予測する。<br>②食事前後中の他害はほとんどなくなった。<br>③食席を職員の傍におき常時観察要だったが、離れた席で、２人席が可能となった。 | 内容 フィルムケース（39ケに増）<br>↑<br>フィルムケースのボルト半日一課題<br>↓<br>本人の好みはしばらく手にもつ作業２種をもつもののようであることがわかってくる。 |
| Ｈ９．３ | | クラス参加 | 「ステップハウス」の声かけで自立移動可能移動時、付添いの姿なし | ↓<br>Ｈ９．４月 |
| | | 掃除 | ①この時間帯における布団こもりが少なくなった。<br>②食事、手洗い前なら声かけでOK実物提示の要なし<br>③声かけされなければやることはない。<br>④掃除を嫌がり、後の時間帯に他害に及ぶことはなくなった。 | チームミーティング<br>作業への慣れ＋飽きがでてきたようで、移動拒否と、中断（以前と異なり、遊びがめだってくる） |
| | | 余暇 | ①ジャンケン転化－他者近寄り時「ダメ」との声かけで制止は不可能で助長してしまうが、「ジャンケン」の声かけの場合、即中断し、 | ↓<br>Ｈ９．９<br>チームミーティング<br>場－同<br>内容－牛乳パック解体（３ケ） |